鉄スクラップ産業の
2018年の状況と 2019年の展望

2019. 6. 15

Korea Steel & Iron Association (KOSA)
Steel Scrap Committee

Ⅰ. 粗鋼及び鉄鋼需要産業

○ 1-1 粗鋼生産

○ 1-2 主な鉄鋼需要産業

Ⅱ. 鉄スクラップ産業の現状

○ 2-1 鉄スクラップ需給の現状

○ 2-2 鉄スクラップの輸出入の現状

Ⅲ. 韓国鉄スクラップ産業のイシュー

○ 3-1 低級鉄スクラップ流入の増加

Ⅰ. 粗鋼及び鉄鋼需要産業

1-1. 粗鋼生産の展望

1-2. 主な鉄鋼需要産業

1-1. 粗鋼生産の展望

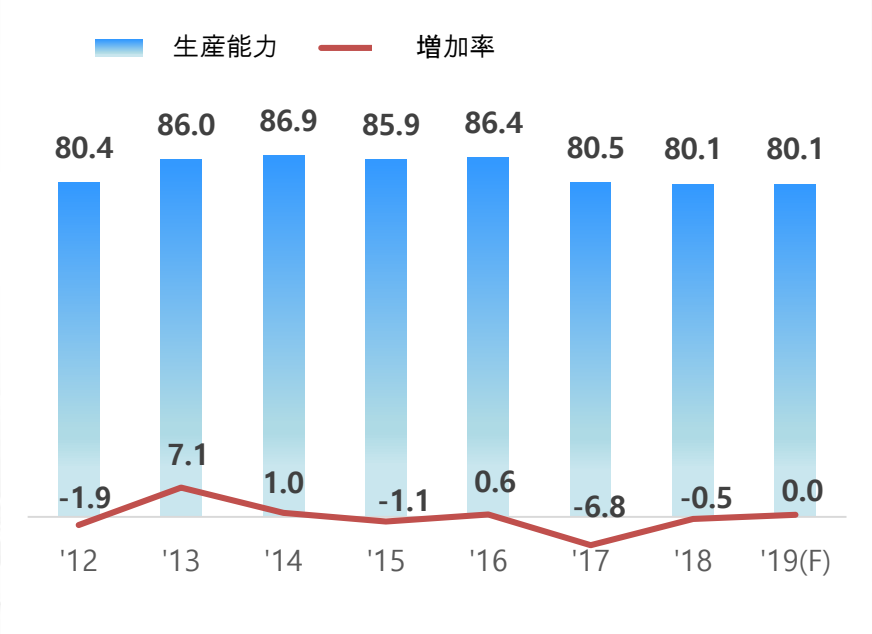
2019年粗鋼生産の展望

※ 転炉及び電炉は前年と同水準を維持

- 転炉鋼：'18年 51,860千t → '19年(F) 51,860千t (0.07%↑)
- 電炉鋼：'18年 28,284千t → '19年(F) 28,284千t (1.1% ↑)

→ 大韓製鋼の新平電炉製鋼の老朽化で60万 t 閉鎖（'18.5）以降、生産能力変更なし。

生産能力の推移（単位：千トン、%）



製鋼法別生産能力 (単位:千t)

区分	転炉	電炉	合計
'12	46,320	34,035	80,355
'13	52,520	33,505	86,025
'14	54,950	31,925	86,875
'15	54,414	31,501	85,915
'16	54,414	32,001	86,415
'17	51,860	28,885	80,745
'18	51,860	28,284	80,145
'19(F)	51,860	28,284	80,145

1-1. 粗鋼生産の展望

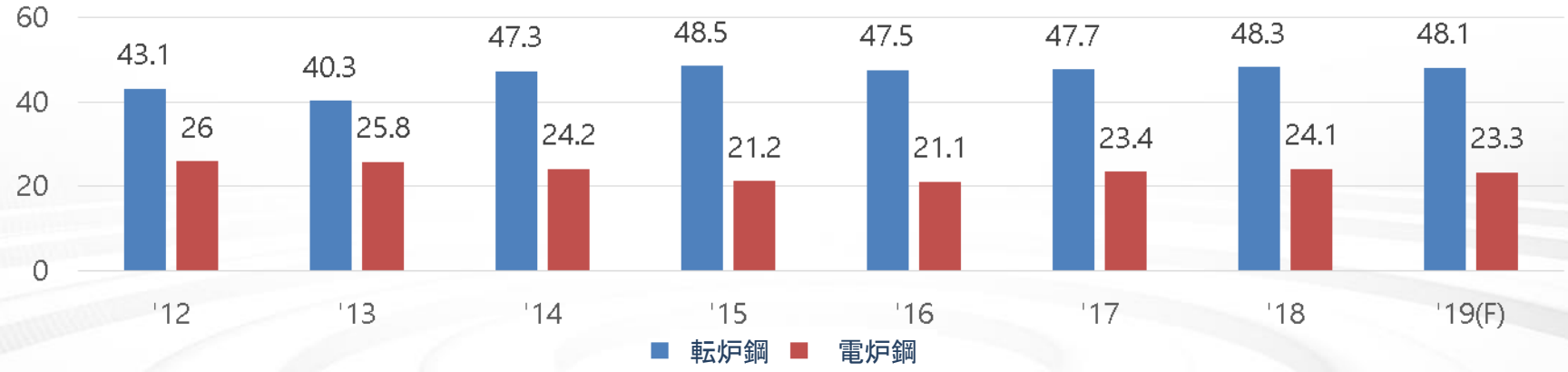
2019年粗鋼生産の展望

□ （転炉鋼） ’18年鉄鋼製品の輸入が急減による生産拡大で、稼働率が上昇し、前年比1.2%増加. ’19年は設備補修計画などの影響で、前年比小幅の減少（0.4%）が予想される。

□ （電炉鋼） ’18年, 建設用鋼材の低迷にもかかわらず、特殊鋼の生産拡大、輸入の急減などで前年比2.9%増加。一方 ’19年は、建設用鋼材需要の低迷と鉄鋼製品輸入増加の影響で3.4%の減少が予想される。 ※’19年１～４月、棒鋼類輸入：前年比33.5%増加。

区分(百万ｔ)	'13	'14	'15	'16	'17	‘18	’19(F)
合計	66.1	71.5	69.7	68.6	68.6	72.4	71.4
(%)	-4.4	8.3	-2.6	-1.6	-1.6	5.2	-1.4
転炉鋼	40.3	47.3	48.5	47.5	47.7	48.3	48.1
(%)	-6.6	17.5	2.4	-2.0	-2.0	1.2	-0.4
電炉鋼	25.8	24.2	21.2	21.1	23.4	24.1	23.3
(%)	-0.7	-6.1	-12.5	-0.5	-0.5	2.9	-3.4

製鋼法別粗鋼生産推移(単位: 百万ｔ)



1-2. 主な鉄鋼需要産業

2019年　主な鉄鋼需要産業の展望

□ 建設投資： 238兆ウォン(前年比 2.7% 減少) を予想

- ㅇ土木部門が低迷し、建築部門も住宅建設を中心に'18年度から引き続き減少の傾向
  ※受注は、民間住宅部門を中心に前年比 6.2%減少の136兆ウォンを予想している

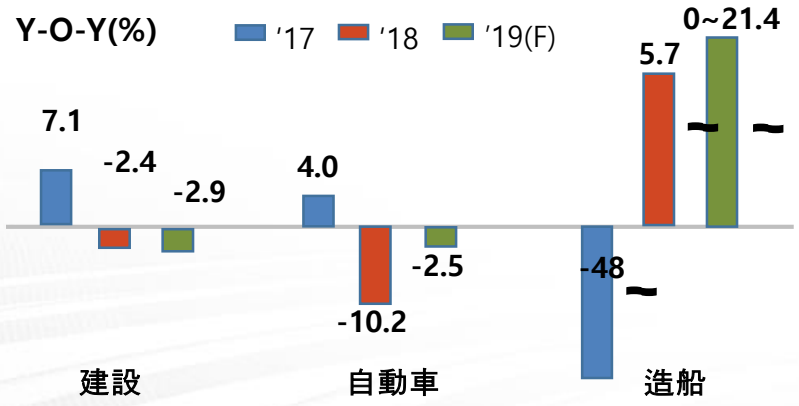
□ 自動車生産： 3,900千台(前年比 2.5% 減少) を予想

- ㅇ OEM 輸入拡大（韓国GM、ルノーサムスン）及び労働時間の短縮（68時間/週→52時間/週）で前年比2.5%の減少が予想される
- ㅇ 米国通商拡大法による高関税賦課時の輸出急減での減産が予想される

□ 造船受注： 11百万CGT (前年並み)を予想

- ㅇ '18年 LNG 運搬船の大量発注、超大型コンテナ船の発注で、前年比大幅増加の11.6百万CGT
- ㅇ '19年は前年並みで、LNGガス船の市況好調及び先制的投資が発生する場合、14百万CGTまでは可能

鉄鋼主要需要産業の推移



	単位	2016	2017	2018	2019(F)
建設投資	兆ウォン	233	251	245	238
	前年比(%)	9.0	7.1	-2.4	-2.9
自動車生産	千台	4,230	4,410	4,000	3,900
	前年比(%)	-7.8	4.0	-10.2	-2.5
造船受注	百万CGT	2.2	7.4	11.6	11.0~14.0
	前年比(%)	-400	-48	5.7	0~21.4

Ⅱ. 鉄スクラップ産業の現状

2-1. 鉄スクラップ需給の現状

2-2. 鉄スクラップの輸出入の現状

2-1. 鉄スクラップ需給の現状

需給の現状

□ **2019年鉄スクラップの需要（供給）： 29.9百万ｔ（前年比0.9%減少）を予想している**

○（需要側面）建設産業の低迷による建設用鋼材の減少で鉄スクラップ需要の縮小が予想される
※コスト削減のための低い在庫政策(年平均在庫水準（万ｔ)) : 123('17),135('18),120('19.1～3)

○（供給側面）国内需要産業の低迷が持続しており、工場用鉄スクラップ発生不足
※'18年新断等級が不足したが、'19年は重量等級が不足の現象が続く。

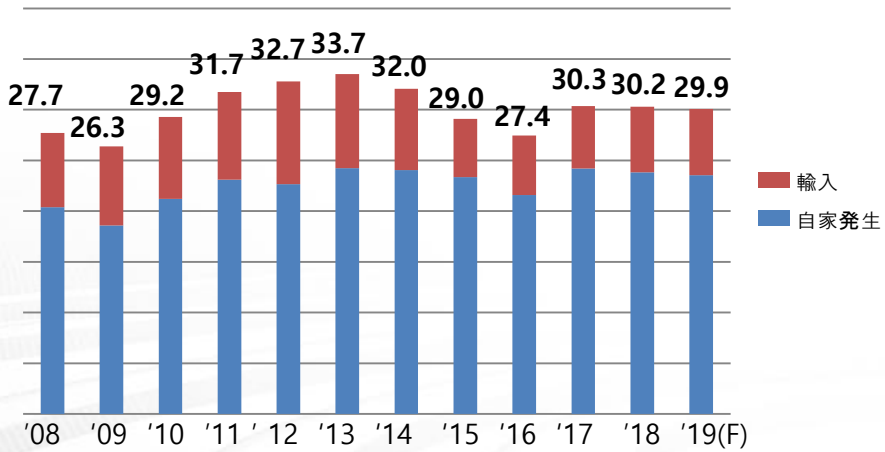
○（自給率推移）：81.4%('15)→ 80.3%('16)→ 81.5%('17)→ 79.9%('18)→79.9%（'19F）

□ **'18年ﾋﾞﾚｯﾄ輸入： 462千ｔ('17年比 31%減少)**

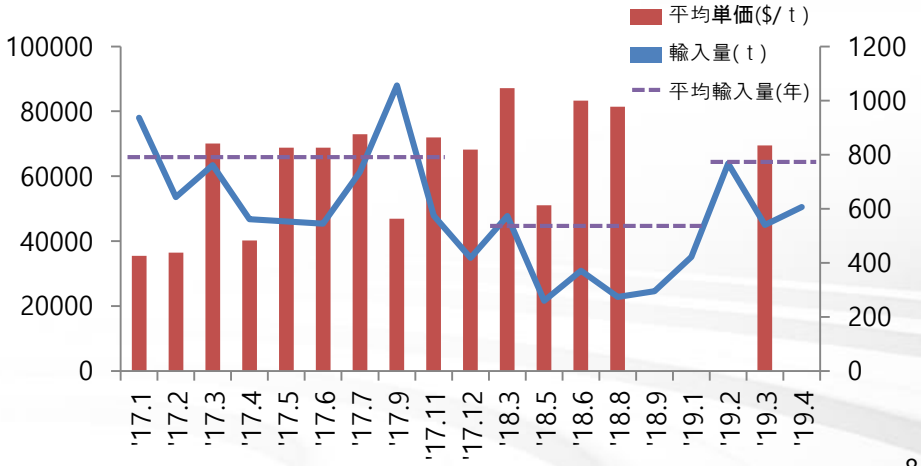
○('18年)中国の市況好調で、輸出物の量が急減及び鉄スクラップ価格の低迷で輸入が急減。

○('19年)上半期(４月～６月)慶南地域一部製鋼工場稼働中止のためﾋﾞﾚｯﾄの輸入が増加で前年より輸入量が増加の予想。

□ 鉄スクラップ 需給の現状（百万トン）



□ 中国産ﾋﾞﾚｯﾄ輸入量、平均単価推移



2-2. 鉄スクラップ輸出入の現状

主な国別の輸出入現状及び割合の変化

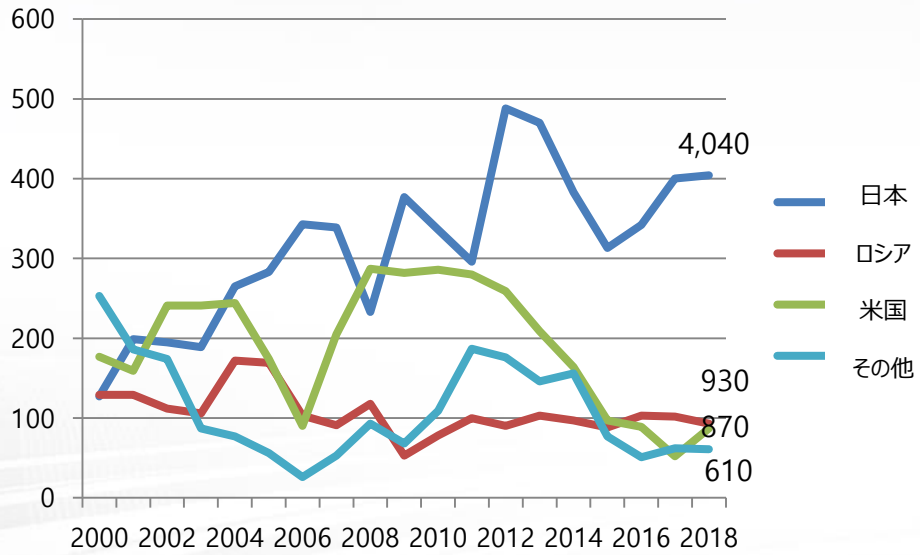
□ **2019年輸入： 6,533千ｔ (前年比 1.3%, 83千ｔ ↑)**

- 製鋼メーカーの近距離を中心とする輸入構造がより強化されている傾向が表れている。
- 国内発生不足の重量等級関連輸入の動きがあると予想。

□ **2019年輸出： 592千ｔ (前年比28.1%，130千ｔ↑)**

- 持続増加している輸出が2018年には国際化に対する国内価格が相対的高価で輸出物量が減少

主要国別輸出入の推移 (単位：千ｔ)



輸出入国割合の変化 (単位: 千ｔ, %)

区分	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019 (1~4月)	前年比 (%)
日本	4,700	3,830	3,130	3,420	4,000	4,040	1,551	4.1
ロシア	1,030	970	880	1,030	1,020	930	246	-5.1
米国	2,090	1,640	970	890	520	870	438	189.6
その他	1,460	1,560	770	510	620	610	238	8.8
輸入合計	9,280	8,000	5,750	5,850	6,160	6,450	2,473 (6,533)	16.8 (1.3)
輸出合計	205	297	418	554	664	462	592	28.1

3-1. 低級鉄スクラップの流入増加

3-1. 低級鉄スクラップの流入増加

低級鉄スクラップの韓国流入増加

□ **背景**

- 中国の環境汚染防止法固形廃棄物輸入管理規程（2018.04.19施行）によって、鉄スクラップが輸入制限品目に含まれて、中国内の日本鉄スクラップ輸入量が減少。

  ※中国の'18年度下半期（5月～）から、日本鉄スクラップの輸入量：562千トン（前年対比63%減少）

- 海外（日本、ロシア、米国）から輸入している鉄スクラップに異物混入が増加し、品質低下

  ※最大輸入国である日本だけではなく、その他の国（米国、ロシア）からも事例発生

□ **低品質鉄スクラップ輸入事例**

異物(ダスト) 1% 水準 混入

H2 等級外 非鉄, 異物混入

新断 等級外混入(残雪, 異物 等)

出典: ISSB

3-1. 低級鉄スクラップの流入増加

低級鉄スクラップの韓国流入増加

□ 韓国の製鋼メーカーの対応

- （現状）輸入鉄スクラップの品質基準がなく、各製鋼メーカーで自主的な基準で輸入を行い、使用しており、輸入鉄スクラップの管理基準に対するガイドラインが必要な状況。
- （対応計画）低級鉄スクラップが韓国へ流入した際、製鋼メーカー別のクレーム事例調査（'14～19年）後、対策を検討中。

Thank you！
有り難うございました！